

1 製品及び会社情報

製品	: くみあいハイパーCDU®(※) (※) = 短期, 中期, 長期, (細粒)-2, (細粒)-5
供給者の会社名	: 全国農業協同組合連合会
担当部署	: 耕種資材部
住所	: 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号	: 03-6271-8285
FAX 番号	: 03-5218-2536
e-mail	: zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先	: 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 ; 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないでください。

2 危険有害性の要約

製品のGHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	: 区分に該当しない
	自然発火性固体	: 区分に該当しない
	酸化性固体	: 区分に該当しない
	金属腐食性物質	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	: 分類できない
	急性毒性 (経皮)	: 分類できない
	急性毒性 (吸入)	: 分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない
	眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	: 分類できない
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 分類できない
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない
	誤えん有害性	: 分類できない

製品安全データシート

整理番号 : jcam-6500

改定日 : 2021年4月21日

環境に対する有害性 水生環境有害性 短期 : 区分に該当しない
(急性)
水生環境有害性 長期 : 分類できない
(慢性)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル なし
注意喚起語 なし
危険有害性情報 なし

注意書き

- 【安全対策】 熱から遠ざけること。
保護眼鏡、保護手袋を着用すること。
取り扱い後は手をよく洗うこと。
粉じんを吸入しないこと。
換気の良い場所で使用すること。
- 【救急処置】 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断を受けること。
眼に入った場合には、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- 【保管】 容器を密閉して保管すること。
可燃物から離して保管すること。
- 【廃棄】 製品又は容器を廃棄する場合は、国及び地方自治体の規則に従うこと。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : アセトアルデヒド縮合尿素

別名 : ハイパーCDU[®]

主成分	含有量 (%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
CDU	90以上	$ \begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{C} \\ / \quad \backslash \\ \text{CH}_3\text{HC} \quad \text{CH-NHCONH}_2 \\ \quad \quad \\ \text{HN} \quad \quad \text{NH} \\ \backslash \quad / \\ \text{C} \\ \\ \text{O} \end{array} $	5-947	1129-42-6
尿素	6以下	$\text{CO}(\text{NH}_2)_2$	2-1732	57-13-6
その他 添加物	10以下	—	—	—

※1) 含有量は代表的な分析値であり、若干の幅で変動する。

労働安全衛生法に基づく通知対象物質

該当なし

化学物質排出把握管理促進法に基づく対象物質

該当なし

4 応急措置

吸入した場合	: 分解ガスや粉塵の場合は、新鮮な空気のある場所に移し安静にさせ、必要に応じて医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	: 流水又はシャワーで洗い流す。
眼に入った場合	: 1. 直ちに多量の清水で洗眼する。 2. 必要に応じて医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 意識があるときには、飲んだものを吐き出させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 多量の水
使ってはならない消火剤	: 情報なし
火災時の危険有害性	: 加熱されると有害ガス（窒素酸化物、アンモニアガス等）を発生する。
特定の消火方法	: 本製品は不燃性であるが、可燃性物質の燃焼を助勢することがあるので、保管場所を移動する。 移動が困難な時は、多量の水を注水する。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。 状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護マスク等を着用し、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。可燃性物質に着火した場合に備えて、消火機材を準備する。
環境に対する注意事項	: 河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。 排水溝へ流さない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 掃き集めて回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 発散した粉じんを吸いこまないように、必要に応じて適切な保護具を着用し、取扱い後は顔、手、口等を水洗いする。
接触回避	: 強アルカリ性資材、燃料その他の可燃性物質との直接混合は避ける。
安全取扱注意事項	: 1. 床にこぼれた粒で足元が滑り、転倒する事があるので、掃除する。 2. 容器は破損につながらないように丁寧に扱う。

保管

- 安全な保管条件 : 1. 開封のまま長期間放置すると、吸湿して固結の原因となるので、開封後は密封して保管する。
2. 直射日光を避け、高温・多湿下での保管は避ける。
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン

8 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 発塵を起こさぬ装置機械を使うか、局所排気装置を使用する。
- 管理濃度 : 設定なし。
- 許容濃度 : 日本産業衛生学会、ACGIH 共に、本品の設定はないが、粉塵対応として、下記の値を推奨する。

日本産業衛生学会勧告値 (2020年) 第3種粉塵

吸入性粉塵 2 mg/m³

総粉塵 8 mg/m³

保護具

- 呼吸器の保護具 : 防塵マスク
- 手の保護具 : ゴム手袋
- 目の保護具 : ゴーグル型眼鏡
- 皮膚・身体の保護具 : 長袖作業衣

9 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 固体
- 色 : 白色～微黄色
- 臭い : データなし
- 沸点又は初留点及び沸騰範囲 : データなし
- 可燃性 : データなし
- pH : データなし
- 溶解度
- 溶解性 (水) : 0.1g/100g(25°C)
- (その他の溶媒) : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 密度 : データなし
- 粒子特性 : 粒径範囲 1～4mm
- その他のデータ
- かさ比重 : 約 1.0

10 安定性及び反応性

- 反応性 : 可燃性物質の燃焼を助勢する。
- 化学的安定性 : 加熱すると有害ガスを発生する。
- 危険有害反応可能性 : 混触危険物質との混触による有害ガスの生成
- 避けるべき条件 : 高温、多湿
- 混触危険物質 : 可燃性物質、アルカリ性物質
- 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、アンモニアガス等

1.1 有害性情報

急性毒性（経口）	<p>:分類できない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ラット LD₅₀ ♂14,300mg/kg ♀15,000mg/kg</p> <p>マウス LD₅₀ ♂11,500mg/kg ♀13,000mg/kg</p>
急性毒性（経皮）	<p>:分類できない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ラット LD₅₀ 8,200mg/kg</p>
急性毒性（吸入）	<p>:分類できない データなし</p>
皮膚腐食性/刺激性	<p>:分類できない</p> <p>構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ヒトの試験では7.5%で Slight irritation、30%で moderate との報告がある(48時間)。</p> <p>ICSC では皮膚に対し発赤と記載されている。</p> <p>ウサギの試験では刺激性は認められていない。</p> <p>上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.4 の判定基準（皮膚刺激性の区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。</p>
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	<p>:分類できない</p> <p>構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ICSC では眼に対し発赤と記載されている。</p> <p>ウサギの試験では刺激性は認められていない。</p> <p>上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.8 の判定基準（可逆的な眼への影響に関する区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。</p>
呼吸器感作性	<p>:分類できない データなし</p>
皮膚感作性	<p>:分類できない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素> 感作性なし</p>
生殖細胞変異原性	<p>:分類できない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>エームス試験 陰性</p> <p>染色体異常試験 代謝活性化なしの場合に陰性との報告がある。</p>
発がん性	<p>:分類できない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害</p>

性情報がある。

<尿素>

マウス(0.45-4.5g/kg, 12ヶ月)およびラット

(4.5-45g/kg, 12ヶ月)の試験では発がん性は認められていない。

生殖毒性	: 分類できない	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない	データなし
誤えん有害性	: 分類できない	データなし

1.2 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性
短期(急性)

: 区分に該当しない

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

<CDU>

魚毒性 : 96時間 LC₅₀ >1,000mg/L (ヒメダカ
Orzias latipes)
NOEC(最大無影響濃度) ≥1,000mg/L

<尿素>

魚毒性 : 96時間 LC₅₀ >9,100mg/L
(Barilius barna)
藻類毒性 : 192時間許容限界 >10,000mg/L
(緑藻, Scenedesmus quadricauda)
甲殻類 : 24時間 EC₅₀ >10,000mg/L
(Daphnia magna)

水生環境有害性
長期(慢性)

: 分類できない

残留性・分解性

: <CDU> データなし

<尿素> 易分解性

生体蓄積性

: データなし

土壤中の移動性

: 施肥にあたっては、包材裏面の「施肥量」を参照し、詳しくは最寄りのJAにお問い合わせ下さい。

オゾン層への有害性

: データなし

閉鎖性水域では水質の富栄養化をもたらすので、排水については「水質汚濁防止法」の排水基準を守ること。

1.3 廃棄上の注意

1. 下水、河川等に直接流さない。
2. 「廃掃法」にしたがって処理する。
3. 燃やさない(不燃物であるが加熱すると有害ガスを発生する)

1.4 輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 該当なし
品名	: 該当なし
国連分類	: 該当なし
容器等級	: 該当なし
IMDG (国際海上危険物規則)	: 該当なし
ICAO-TI (国際民間航空機関技術指針)	: 該当なし
／IATA-DGR (国際航空運送協会危険物規則)	

国内規制 : 下記の法令に従い、規定の積載方法、容器等によって輸送する。

船舶安全法, 航空法, 湾則法

輸送の特定の安全対策及び条件 : 1. 雨水等による水濡れ防止を行う。
2. 破袋、荷崩れ等を起こさぬよう適切な対策をとる。

1.5 適用法令

肥料の品質の確保等に関する法律 : 登録肥料

消防法

: 該当しない (法第2条別表／危政令第1条の試験結果より非危険物に該当)

労働安全衛生法

粉じん則

: 粉じんが発生する屋内作業場は粉じん則が適用される。
粉じんを多量に吸入した場合、肺障害等の健康障害のおそれがあるため、作業環境測定を行うとともに、その結果に基づいたリスクアセスメントを行うこと。

船舶安全法

: 該当しない

航空法

: 該当しない

湾則法

: 該当しない

化学物質排出把握管理促進法

: 該当しない

1.6 その他の情報

1) 本安全データシート (SDS) は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

2) 本文中の注意事項は通常の実用性を想定しておりますので、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。

3) 当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

4) 本 SDS の危険有害性は、以下の情報・基準を元に作成いたしました。

- ・ 厚生労働省「職場のあんぜんサイト」の GHS 対応モデル SDS
- ・ 当社原料メーカーから入手した原料 SDS
- ・ JISZ7252:2019「GHS に基づく化学品の分類方法」
- ・ 「危険物船舶運送及び貯蔵規則」

製品安全データシート

整理番号 : jcam-6500
改定日 : 2021年4月21日

本製品については、下記にお問い合わせください。

会社名 ; ジェイカムアグリ株式会社
連絡先 ; 生産管理本部
住所 ; 東京都千代田区神田須田町 2-6-6 ニッセイ神田須田町ビル
電話番号 ; 03-5297-8904
FAX番号 ; 03-5297-8908
緊急連絡先 ; 水俣工場
電話番号 ; 0966-63-2235